

スクリーニングスタートマニュアル

スクリーニングとは

すべての児童・生徒を対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な児童・生徒や家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別

客観的データ



複数人による多角的な議論

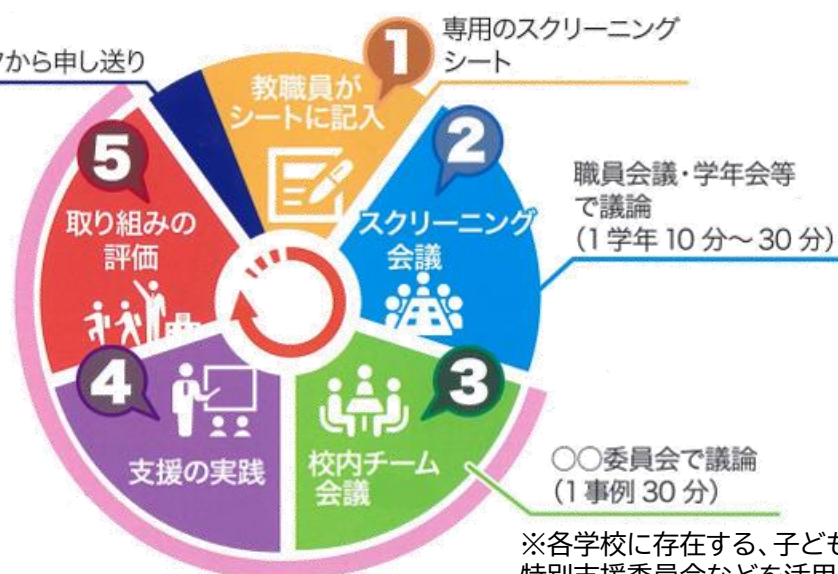


児童・生徒への
理解が深まる

ケースの発見や
重大事案の予防
につながる

抱え込み防止
負担軽減
チームカアップ

必要に応じて
未就学児のデータから申し送り



※各学校に存在する、子ども理解委員会やいじめ不登校委員会、特別支援委員会などを活用する

スクリーニング年間スケジュール

内容	時期	詳細
導入	前年度末～4月初旬	年間3回のスクリーニングの日程を決定し、予定に入れておく
		☐ 担当を明確化し校務分掌に組み込んでおく (子ども理解委員会など委員会で運営することが望ましい)
		☐ 学年会議などの予定に入れておく
		☐ SSWの出勤日や巡回日程を把握し決定する
		☐ シートの入力期限を決定する
年度当初に日程を確保しておく ※SSWが配置されている場合は、SSWが勤務する日程を調整し、決定する		☐ PCの管理や入力の方法を確認する



研修	4月中旬～5月	スクリーニングに関する研修を実施する
		☐ 実施の意義を理解する
		☐ 手順を理解する
		☐ チェック基準について確認する

スクリーニングシートへの記入	1回目	2回目	3回目	シートの「現状」部分を個々の児童・生徒について入力する
	5～6月	9～10月	1～2月	☐ シートに記載の留意事項を確認し入力する ☐ 期間内に順次持ち回りでデータを入力する ☐ 「地域担当」は地域担当教員や教頭、SSWが地域人材から聞き取った情報をもとに記入する ☐ 学校独自に必要な項目は各カテゴリーのその他欄を活用する ☐ 特記事項等は④その他・備考欄を活用する ☐ 新年度就学児や転入児童等については引き継ぎ資料を反映させる

▼スクリーニングシート(サンプル)

児童生徒理解・早期対応・支援の見える化のための

YO-SS (大阪府大山野式スクリーニングシート)

現状										スクリーニング会議				支援の実際								変化			
年組	番号	氏名	欠席	遅刻・早退	持ち物	健康	...	...	合計	...	複数人で暫定的に決めた今後の方向性 (A・B・C)	校内チーム会議にあげる	...	A 教職員の関与			B 地域資源の活用			C 専門機関の活用			結果		
														養護教諭の関与	...	...	子ども居場所、食堂の活用	...	...	家庭児童相談室・児相の活用	...	...	...	...	
5	1	1								A・C															
5	1	2								B															
5	1	3								C															
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	

このシートはチェックだけでなく、チェックや議論の結果から方向性が示唆されるシートです。ご活用のご相談は裏表紙のアドレスにご連絡ください。

スクールソーシャルワーカー＝SSW
スクールカウンセラー＝SC

スクリーニング会議、校内チーム会議の司会
例)特別支援コーディネーター、教育相談コーディネーター、SSW等

内容	時期			詳細
	1回目	2回目	3回目	
スクリーニング会議	6～7月	10～11月 ※年2回実施も可	2～3月	校内チーム会議にあげる児童・生徒を決める
				☐ 学年団や低・中・高学年等小集団で時間を設定して実施する(1学年約30分程度で終える) ☐ シート名簿に沿って上段から順に、気になる日ごろの様子について共有する ☐ 合計6ポイント以上をめやすとして、児童・生徒を校内チーム会議の対象にあげる ☐ 授業改善等、まずは校内体制で対応できるかどうか確認したうえで校内チーム会議にあげることを検討する ☐ 合計6ポイント未満であっても気になることがあれば校内チーム会議対象にあげる
A 教職員の関与 ④ 学年団 ④ 担任 ④ 養護教諭 等のアプローチ				支援策の検討を行う
				☐ 必要な支援についてA～C(左図)を決定し記入する(暫定でも決定しておく) ☐ 情報共有するだけではなく、次の手立てとなる方向性を意識してA～C(左図)を記入する ☐ 協議の中で出た内容はワンポイントとしてまとめて簡潔に記しておく ☐ 校内チーム会議にあげる児童・生徒を集計する
B 地域資源の活用 ④ 学習支援 ④ 居場所 ④ 子ども食堂 ④ 地域人材 ④ 家庭教育支援 等の活用				☐ 3回目は「3回目－1回目」でデータを見ることで児童の変化を確認し何が良かったのか、うまくいっていない場合は支援(A～C)内容変更等を簡単に検討する

「地域資源の活用」については、現在自校の児童・生徒が受けている支援をあらかじめ把握しておく。
また必要な支援の開拓について「学校運営協議会」や「共育コミュニティ会議」等地域人材が参集する会合等で日頃から議題やテーマに挙げ、話し合う機会をもっておく。

C 専門機関の活用

- ④ 児童相談所
- ④ 家庭児童相談室
- ④ 少年サポートセンター
- ④ 教育センター
- ④ 福祉制度
等の活用

ケース会議



校内チーム会議	7～8月	11～12月 ※年2回実施も可	2～3月	学校教職員(生徒指導、特別支援、養護教諭、SSW、SCなど)支援に必要な職種の参集により校内チーム会議を実施する
				☐ 検討対象児童一人あたり5～10分以内でスクリーニング会議で出した方向性に基づき検討を行う ☐ スクリーニング会議で決めた対象児童・生徒の状況・方向性、そしてその後の取り組み状況を中心に簡潔な説明を行う ☐ さらに深く、具体的に動けるよう地域や行政で支援を拡大していける可能性を検討する ☐ 協議の結果を具体的に「支援の実際」のA～C個人欄に記入しながら進める ☐ 効果がなかった支援については「支援の実際」欄に×をつける ☐ 校内チーム会議は、1回の会議が2時間以内となるよう工夫をする(各学年〇人以内に絞る、チーム会議を2回に分ける等) ☐ ケース会議を行う必要があるかどうか決める。

※校内チーム会議がケース会議となる場合もある

※スクリーニング会議であがった児童・生徒で緊急性が高い場合はすみやかに、より個別となるケース会議を行う。

スクリーニング実施校の声

取り組みの 効果

円グラフの項目はある学校の1例です。

遅刻・早退が好転したケース



保健室来室が好転したケース



諸費滞納が好転したケース



友人関係が好転したケース



※他自治体の例



自分では解決できない問題点や子どもの課題を共有し、支援方法などのアドバイスもいただけたのでよかったです。また他の学年や他の児童を把握することができ、校内で共有することで自分も気を付けるようになりました。(20代 初任)

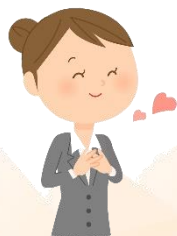
スクリーニングチェックを行うことで目立たない子どもの特徴や家庭状況、課題などが浮き出てくるので、一人ひとりを見ることができてよかった。(20代 初任)

児童のことをより客観的に分析することができ、内容項目を確認することで「児童の見方」が分かった。(20代 担任経験5年)

担任が気づいていなかった現状が、他の先生の質問によっておもてに出てくるのがよいところだと思う。(30代 担任経験10年)

前回と数値で比較することで、子どもの変化を客観的につかむことができてよかった。(40代 担任経験15年)

本市のめざす、学校プラットフォーム化とは「地域に開かれた教育課程」や「地域とともにある学校づくり」である。スクリーニングはその実現のための必須アイテムでもあると考える。(管理職)



スクリーニングスタートマニュアル

※本リーフレットは「橋本市スクリーニング活用拡充事業」

(委託元:橋本市子育て世代包括支援センター)に係る委託業務によって作成されたものです。

研究代表者:山野則子

研究室スタッフ:菅原恵

連絡先:大阪府立大学 人間社会システム科学研究科

住所:〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

電話・FAX:072-254-9783(山野則子研究室)

e-mail:eb-ssw@sw.osakafu-u.ac.jp